

口腔ケアに関する看護師の意識・行動の変化

東病棟 4 階 ○島奈央 田中千秋 柴田明子 北川陽子
水田絵美 辻川美穂 鈴木すすゑ

keyword : 口腔ケア、意識・行動の変化、資料・説明

はじめに

当病棟には、術後やターミナル期、化学療法の副作用による口内炎の悪化など、経口摂取が不可能な患者が多い。このような患者は唾液分泌も低下して乾燥しやすく、口腔内の自浄作用は減弱し、易感染状態になっている。

多喜田は「口の中を清潔にすることは、唾液の自浄作用など生理機能を保持したり、細菌の繁殖による二次感染を予防するだけでなく、生活リズムを整えたり、メリハリをつけるなど、心理的面からも欠くことができない」¹⁾と口腔ケアの意義を述べており、多くの病院においてもその改善に取り組んでいる。

一方で口腔ケアは看護師個人の能力・技術・知識に左右される部分が多く、日常の口腔ケアも充分であるとは言えないと感じている。今回、口腔ケアに関する実態を調査し、問題点を明らかにした上で、資料を配布、説明することにより口腔ケアに対する意識・行動の変化を促したいと考え、本研究に取り組んだのでここに報告する。

I. 研究目的

口腔ケアの質の向上をはかるため、口腔ケアについて学習する機会を設け、看護師の意識・行動の変化をみる。

II. 研究方法

1. 研究対象

研究の同意を得られた研究者を除く、当病棟の看護師 12 名

2. 研究期間

平成 17 年 7 月～9 月

3. データの収集方法

文献を参考に自由記述及び選択的回答の質問用紙(表 1)を作成し、口腔ケアに関する資料を配布・説明の前後に調査した。

III. 倫理的配慮

研究目的と内容について紙面で説明し、同意を得た。収集したデータは研究者のみが取り扱い、アンケート結果から個人の特長ができないように配慮した。

表 1. アンケート項目

1	口腔ケアをどのようなものと考えていますか
2	口腔ケアと感染症について知っていることを書いて下さい
3	どのような患者様に口腔ケアを行いますか
4	どのような口腔ケアを行っていますか 1)うがいができ、口が自分で開けられる人の場合 2)自分でうがいができず、口を開けられない人の場合
5	口腔ケアの際、何を使用していますか
6	口腔ケアの所要時間はどのくらいかかりますか
7	口腔ケアの観察ポイントを挙げてください
8	どんなに忙しくても口腔ケアを行っていますか
9	口腔ケアに対して負担感がありますか
10	口腔ケアに関する資料を読み、何か変化はありましたか

*設問 10 は資料配布後のみ

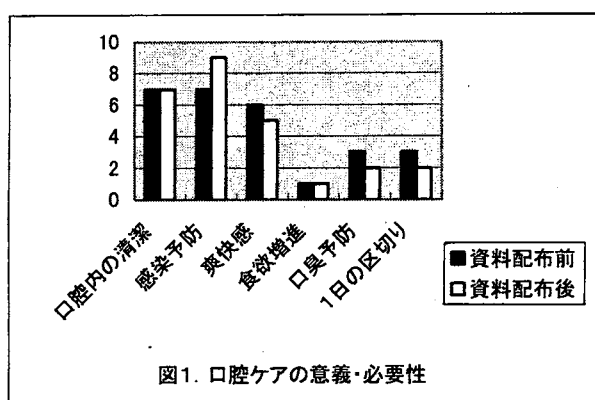
IV. 結果

研究対象の背景は 1 年目 2 名、2 年目 1 名、3

年目2名、4～9年目3名、10年目以上4名で平均年数8.6年（1～28年目）であった。

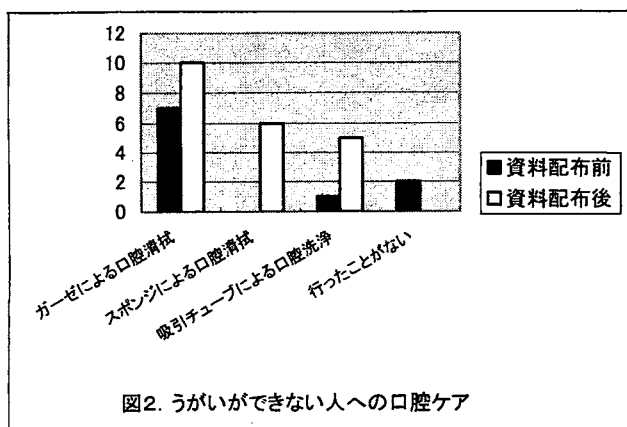
1. 口腔ケアの意義・必要性

「口腔ケアとはどのようなものと考えているか」では「口腔内の清拭」は前7名、後7名、「感染予防」は前7名、後9名、「爽快感」は前6名、後5名、「食欲増進」は前1名、後1名、「口臭予防」は前3名、後2名、「1日の区切り」は前3名、後2名であった。（図1）



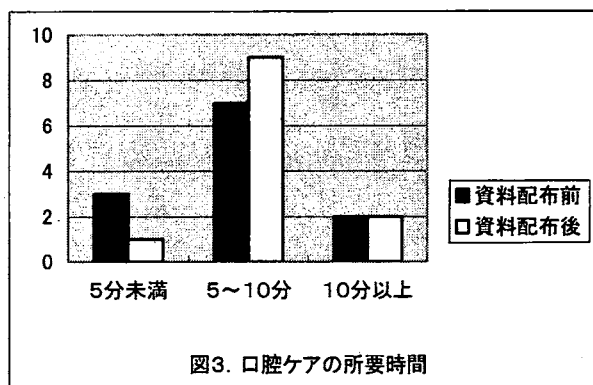
2. 口腔ケアの現状

1) うがいができる人の場合、うがいあるいは歯磨き介助を行うが前後とも12名であった。
2) うがいのできない人の場合、「ガーゼによる口腔内清拭」は前7名、後10名、「スポンジによる口腔内清拭」は前0名、後6名、「吸引チューブによる口腔内洗浄」は前1名、後5名であった。また「行ったことがない」は前2名であり、2名とも経験年数1年目であった。資料配布後は「行ったことがない」が0名となり、その他の項目においてはすべて人数増加がみられた。（図2）



3) 所要時間

口腔ケアの所要時間については「5分未満」は前3名、後1名、「5～10分」前7名、後9名、「10分以上」は前2名、後2名であった。（図3）



4) 口腔ケアの観察

口腔ケアの観察ポイントの回答内容が資料配布後にはより具体的となった。（表2）

表2. 口腔ケアの観察ポイント

資料配布前	資料配布後
舌苔、口臭、嚥下状況、歯間の炎症、食物残渣、歯の汚れ、口唇、痰の有無、義歯、舌の状況、口内炎の有無、口腔内の状態	口腔内のびらん、発赤、出血、口内炎、口腔内の痛みの有無、口臭の有無、義歯、舌の状況、痰の有無、舌苔、舌の乾燥の有無、義歯、噛み合わせ、歯肉、歯の汚れ、食物残渣の有無、嚥下状況、意識レベル、生活習慣、ADLの状況満足度

3. スタッフの意識

資料配布後、忙しくても口腔ケアを行うと答えた看護師の人数が増加した。（表3）負担感についてはあまり、差はみられなかった。（表4）

資料配布後、「後回しになりがちな口腔ケアの重要性を再認識した」「口内炎悪化により経口摂取困難になった患者に出会い、一層化学療法中の口内炎予防に努めなければならぬと実感した」の回答がみられた。

表3. どんなに忙しくても口腔ケアを行うか

	資料配布前	資料配布後
どんなに忙しくても行う	0人	0人
忙しくても行う	6人	10人
忙しいとあまり行わない	6人	2人
忙しいと行わない	0人	0人

表4. 口腔ケアに対して負担感

	資料配布前	資料配布後
全く負担に感じない	2人	1人
あまり負担に感じない	4人	6人
やや負担に感じる	6人	5人
非常に負担に感じる	0人	0人

V. 考察

経験年数に関わらず、口腔ケアの意義・必要性は理解されていると言える。しかし、うがいができない場合の口腔ケアにおいては経験年数の短い看護師の知識・経験不足が考えられ、実際に行なえていなかった。資料配布・説明により知識が深められ、行動に変化がみられた。また、口腔ケアの観察ポイントにおいて具体的な記述が増えたことは口腔ケアについての知識・必要性を再認識したと考えられる。

忙しくても行うという意識が増加したこと、所要時間においては5分以上の看護師が増えたことは口腔ケアに対する意識を高めたと言える。

資料配布後、「後回しになりがちな口腔ケアの重要性を再認識した」や「口内炎悪化により経口摂取困難になった患者と出会い、一層化学療法中の口内炎予防に努めなければならないと実感した」の回答は口腔ケアに対する意識の変化がみられる。

今回、一般的な口腔ケアについての資料を配布し、説明したのみであるが、看護師の意識の向上とケアの頻度は増加した。しかし、ケアを受け

た患者の QOL の向上が図れたかどうかについては調査を行わなかった。今後、患者の QOL について評価を行う必要がある。また、他の病棟、施設での口腔ケアの具体的な方法について学習する機会を設け、知識・技術をさらに習得し、日々の忙しい業務の中で後回しになりがちな口腔ケアの見直しと指導が今後の課題である。

VI. 結論

特に経験年数の短い看護師に行動・意識の変化がみられた。その他の看護師においても口腔ケアの意識の向上とケアの頻度の増加がみられた。

VII. おわりに

病棟内で口腔ケアを徹底し継続していくためには、看護師が常に口腔内環境に関心を持ち、口腔ケアの重要性を理解し、意識して口腔ケアを行う姿勢が不可欠である。今後も患者にとって安全・安楽かつ効果的な技術が提供できるよう積極的に口腔ケアに取り組んでいきたい。

引用文献

- 1) 多喜田恵子：看護介入からみた清潔ケアの極意『口腔ケア』月刊ナーシング、17(4)、p76、1997。

参考文献

- 1) 大田洋二郎：口内炎の痛み 口渇、エキスパートナーズ、Vol21 No10、p90~95、2005。
- 2) 菅野かおり：口内炎のセルフケア支援、看護学雑誌、67(11)、1066~1068、2003。
- 3) 郡司修子：ナースだからこそできる患者が元気になる口腔ケア、看護学雑誌、69(5)、p492、2005。
- 4) 鈴木俊夫、伯田綾子編：これからの口腔ケア、JNNスペシャル、No73、2003。
- 5) 志摩愛子、鈴木俊夫：口腔ケアをマスターしよう、看

護技術、Vol46 No1、p36～48

6) 川崎つま子：口腔ケアに必要なアセスメントの視点と
アプローチ、看護技術、Vol46 No1、p29～32

7) 長谷川幸代、宮本佳代子、須藤礼子：化学療法を受けて
いる患者の口腔ケア、看護技術、Vol46 No1、
p49～5